

地理学会ニュース 2024年度 第3号

法政大学地理学会 2024年12月15日発行

2025～2026年度評議員選挙投票のお願い

本ニュースに同封されている投票用紙と投票用封筒にて**2025年1月13日(月)【必着】**投票をお願いいたします。投票の方法の詳細につきましては、投票用紙の注意事項をお読み下さい。評議員選挙の選挙権および被選挙権は、一般会員(2024年6月30日までに入会)のみ有します。選挙権のない会員(名誉会員、今年度退会予定者、2024年7月1日以降入会者、学生会員)には、投票用紙および投票用封筒を同封しておりません。

(選挙管理委員長 宇津川喬子)

訃報

中俣 均会員のご逝去について

法政大学地理学会
会長 伊藤 達也

法政大学地理学会の中俣 均会員におかれましては、2024年10月3日に72歳でご逝去されました。

謹んで会員の皆様にお知らせすると共に、故人のご功績を偲び心からご冥福をお祈り申し上げます。

なお、中俣 均会員を偲ぶ追悼記事は法政地理57号(2025年3月発行)に掲載される予定です。

法政大学地理学会 2024年度 第2回例会 シンポジウム テーマ：地理学から食を考える

飽食の時代といわれるように、現在の日本では

「食」に関する量的な問題は無関係であるような風潮がありますが、一方で貧困世帯が増加してきており、物価の高騰が続いている中で、再び「食」の量的な問題は顕在化しつつあります。そもそも、日本人が食料を満足に確保できるようになった歴史は浅く、全国民が腹いっぱい食べることができるようになったのは1970年代に入ってからのことです。

また、農産物の大量輸入や食の安全性、産地偽装問題、コメの過剰・不足問題、過度なブランド信仰、食生活の変化といった現代的課題をいくつも抱えているのが現状です。したがって、さまざまな観点から「食」について考えることが必要であり、地理学からもそのような問題に対して寄与することが喫緊の課題であるかと思えます。

そこで、本年度第2回例会(シンポジウム)は、「地理学から食を考える」とのテーマで、2024年10月27日(日)に法政大学市ヶ谷キャンパスアソナードタワー13階のBT1300室にて開催しました(参加者28名)。本シンポジウムでは川久保篤志氏(東洋大学教授)、湯澤規子氏(人間環境学部教授)、佐々木達氏(文学部准教授)、佐藤秀夫氏(人文科学研究科地理学専攻博士後期課程)の4氏にご報告いただき、その後に参加者全員で全体討論を行いました。

まず、川久保氏の報告「グローバル農産物貿易における日本市場の地位と役割—ポストコロナ期に顕在化した変化に着目して—」では、2000年以降の日本の農産物輸入の動向について主として輸出国側の立場から日本市場に関する分析がなされ、農産物によって動向は異なることや、2000年時点では日本は高品質の需要があり、高価格で農産物を輸入していたために日本市場の地位は高く、輸出国の農業を発展させる役割を担っていたが、それ以降は他諸国が経済成長に伴って農産物輸入を増加させ、高価格による購入を進め



写真1 川久保氏による報告



写真3 佐々木氏による報告

たため、日本市場の地位の相対的な低下が進展してきたことが指摘されました。特に、コロナ後（ポストコロナ期）の日本市場の低下が顕著であることが明らかにされました。

次に、湯澤氏の報告「沢庵と産業革命—食の歴史生態地理学の試み—」では、愛知県の尾西織物地域を対象に、同地域の工業化に伴う農業や食への影響についての考察が試みられました。具体的には、織物工場で提供される食事（工場炊事・共同炊事）の献立や量、費用について、特に漬物に焦点を当てて、その仕入の構造や原料となる大根栽培の増加に伴う地域農業や土地利用への影響、同栽培に用いる堆肥や尿尿処理の展開についての分析を通じて、同地域の変化が明らかにされました。

次の佐々木氏による報告「市場変動下におけるコメ産地構造の変貌—悲劇、喜劇、そして茶番劇—」では、近年の日本におけるコメ需給構造の変化および米価変動のメカニズムについて分析

がなされ、需給調整が翌年の米価の変動に大きな影響を及ぼすとの構造的な問題が指摘されました。また、いくつかのコメ産地を事例に、米価変動に伴う産地の対応についての分析がなされ、産地間での対応の差異や産地構造の再編の詳細が明らかにされました。

最後に、佐藤氏の報告「加工用ブドウ栽培と日本ワイン産業の地域構造」では、昨今の日本におけるワイナリーの増加を背景として、ワインの生産や原料となるブドウ栽培の展開について分析がなされ、主なブドウ産地である北海道や山形県、長野県、山梨県それぞれの差異について、具体的にはブドウ栽培とワイン生産が連動（＝地産地消）している産地とブドウを他県に販売している産地、逆に他県からブドウを買い入れている産地に分かれている構造が示されました。

各氏のご報告後には参加者全員で全体討論（パネルディスカッション）を行い、さまざまな観点から個々の報告に対する質問や相互に関わる質



写真2 湯澤氏による報告

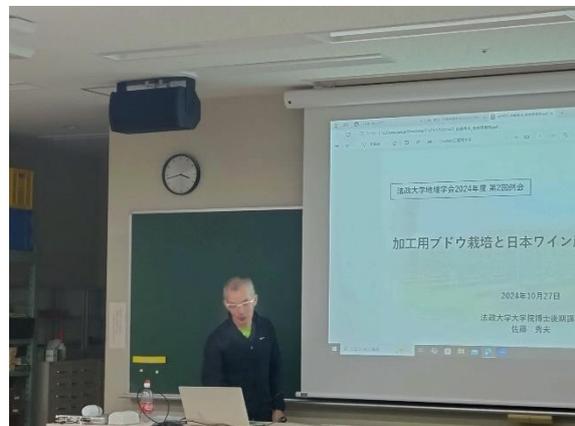


写真4 佐藤氏による報告



写真5 全体討論における4氏



写真6 会場の様子

間が出され、活発なディスカッションが展開されました。会場の都合上、総合討論の時間は1時間ほどしか取れずやや消化不良な面がありましたが、その後、場所を変えて、有志によって食（料理・お酒）を実践しつつ討論の延長戦が行われ、そちらも大変盛り上がりました。

「食」に関わる地理学的な研究は無数に考えられ、今回の例会ではその一部が示されたに過ぎません。いずれかの機会に再び「食」をテーマとするシンポジウムを開催できればと考えていますので、その際には会員の皆様には奮ってご報告・ご参加いただきたいと思います。

(集会委員会)

会計委員会より

会費を滞納されている方にお知らせ致します。本会は2年以上滞納されたら納付の督促を行い、

3年以上滞納されたら会誌等の発送を停止しております。また滞納期間が5年に達しますと、自動的に除籍する対応を取っております。会員各位におかれましては、住所変更等で学会からの連絡が届かず、結果として会費滞納状態になっている方もいらっしゃると思います。住所変更等がありましたら、かならず学会にお知らせいただきますようお願い致します。また、卒業後、学生会員は一般会員となります。卒業された学生会員はメール等でお知らせ下さい。メールアドレスの登録を推進しております。学会ウェブサイトより学会メールを利用してお知らせください。

<<会員動向>>

(2024. 9. 11～2024. 12. 4 まで。敬称略、申し込み順)

【入会】

- ・[一般] なし
- ・[学生] 田井久美子（長野）

【退会】

- ・[一般] 中俣 均（新潟）

法政大学地理学会 「地理学研究奨励金」制度について

法政地理 57 号に掲載される論文の執筆者に、審査により「地理学研究奨励金」を授与します。

3 月法政地理 57 号発行、6 月末までに申し込みを締め切り、その後審査して 10 月末までに決定して常任委員会へ報告し、2024 年の総会で授与する予定です。

なお、執筆者が氏名、連絡先、卒業・修了年度などを明記の上、下記担当に 6 月末日までに応募してください。ただし教員との共著論文は、応募の対象になりません。

担 当：法政大学地理学会副会長 大塚一雄
問合せ先：kotsuka415@gmail.com

法政大学地理学会論文賞選考規程の 細則の制定

第 4 回常任委員会（12 月 4 日）において法政大

学地理学会論文賞選考規程の細則を検討し、次の通り制定しました。

法政大学地理学会論文賞選考細則
2024年12月4日制定

第1条 本細則は、「法政大学地理学会論文賞選考規程」にもとづいて、選考を行う論文賞選考委員会(以下「選考委員会」という)、および、選考委員会が行う選考の手続き等を定めるものである。

第2条 選考委員会は、「法政地理」各巻における選考を行う度に組織するものとする。

第3条 選考は以下に定める手続きによる。

(1) 委員は候補論文を①独創性、②学術上の寄与、③論文の完成度、それぞれの基準を考慮して、5点満点で評定を行う。

(2) 選考委員会において委員の評定の集計を行い、総得点および各委員による評価意見を勘案して、審議に参加した委員の3分の2以上の賛成をもって受賞論文を決定する。

(3) 審議に参加した委員の3分の2以上の賛成を得る論文がなかった場合は、当該巻におい

ては論文賞の授与は行わない。

付則 本細則は、2025年4月1日から施行する。

2024年12月15日発行

編集 法政大学地理学会庶務委員会

発行 法政大学地理学会常任委員会

〒102-8160

東京都千代田区富士見2-17-1

法政大学文学部地理学教室内

Fax. 03-3264-9459

E-mail hoseichiri@chiri.info

Web <http://www.chiri.info/index.html>

郵便振替 00170-9-16744